



Botswana Medical Information



2019年1月

2019年1月報道抜粋

●Sir Ketumile Masire Teaching Hospital (SKMTH)の開院準備

保健省は、昨年死去した2代目大統領の名前を冠した教育病院であるSKMTHを3月開院する予定だが、物品の調達や病院のマネジメントシステム、質の標準化などの準備に時間がかかっている。病院は先進医療を提供し、ボツワナ大学と連携し世界レベルの医療教育を行い、医療研究のハブとなる3つの任務を担うことになる。病院は450床となる予定。今まで政府は、標準的な手術や複雑な手術が必要な患者をインドや南アフリカへ送っていた。2014年から2017年の間、6億2,750万4,802プラが南アフリカの病院へ支払われ、2015年から2017年の間に1,300万プラがインドの病院へ支払われた。SKMTHは救急外傷ケア、女性と子供のケア、循環器、総合腫瘍ケア、内科、外科、医療関連サービスが開始される。(12月22日～1月4日ウィークエンドポスト紙)

●ボツワナは医薬品の共同調達に賛成する

保健大臣は、11月にナミビアで行われたSADC大臣会合において、SADC地域による医薬品共同調達を行うための準備が進んでいることを報告した。また、ボツワナ、ナミビア、エスワティニ、レソトなどの小さな国は共同購入による値引き交渉のメリットが大きいと述べた。(10日デイリーニュース)

●キーポピュレーションに対するHIVの予防について

最近の調査結果より、HIV感染ハイリスクグループへの予防が大切であることが示された。キーポピュレーションである、女性セックスワーカー(FSW)、トランスジェンダー(TGs)、男性間性交渉者(MSM)の人数を推定するため、マッピング・推計調査(MSE)と第二次行動・生物学的サーベイランス(BBSS)の調査がボツワナの選ばれた地域にて行われた。

FSWに関するMSE調査は、ボツワナ12地域で行われ、FSW数を6,718人と推定した。コンドームの使用は2012年79.5%から2017年71.2%に低下した。昨年1年で半数以上が性行為感染症(STI)を経験しており、40%が調査の時点で1症状以上を有していた。

93%のFSWが今までにHIV検査を受けているが(2012年は88%)、昨年検査した人は2012年と同様に半数だった。ほとんどのFSWが政府のSTIサービスを利用し、満足しているとの結果だった。HIV感染者の治療へのアクセスは、2012年の25%から2017年の

88%へ劇的に改善した。HIVの感染率は61.9%から42.8%へ低下した。2012年に調査した地区だけにすると、51.3%となる。地域の感染率は、マウンの28.3%からチョベの71.8%と地域間により大きく異なる。C型肝炎感染者はおらず、B型肝炎はマウンで11%認めた。(11日メヒ紙)

●医薬品の規制に関して、2018年12月より新たに設置された、ボツワナ医薬品規制局(Botswana Medicines Regulatory Authority, BOMRA)に、業務が保健省から移行した。(29日デイリーニュース紙広告)

文責: 高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)